

性的暴行を防ぐには

性的暴行を防ぐには、ひとりひとりの行動が大切です。身近な人が被害に直面している場合、介入し、事態を回避する方法はいくつもあります。「第三者の介入」と呼ばれるものです。

性的暴行を防ぐために何をすべきか

介入によって身近な人の安全を守る際に重要なのは、状況に即した、自分に無理のないやり方をすることです。そうした知識があれば、何か起こりそうな時に自信を持って介入することができます。介入は状況に変化をもたらします。しかし、そのことで自分に危険が及んではいけません。

話題をそらす

危険な状況を見かけたら、被害を防ぐために、できることをしましょう。危険を遠ざける1つの方法は、「話題をそらす」ことです。

- 会話に割って入り、話題をそらす（「お腹が減ったから何か食べよう」「気分を変えに別のところに行こう」など）
- 食べ物や飲み物を持ってきて、危険が迫っている人だけでなくその場の全員に振る舞う
- ゲームや討論、ダンスなど、他の人とも一緒に活動を始める

直接話しかける

困っている人に直接話しかけるのも1つの方法です。

- 「誰と一緒に来たの？」や「自分が一緒にいようか？」などと尋ねる

職権を行使できる人に相談する

場合によっては、寮の管理人や警備員など、職権を行使できる中立な立場の人に介入してもらうのがもっとも安全な方法です。

- 警備員やバーテンなどの職員に自分の懸念を相談しましょう。顧客の安全を守ることはもっとも重要な職務なので、進んで介入してくれるはずです。
- だれかの身の安全が心配なときは、ためらわずに警察等に通報しましょう。

周囲の協力を得る

自分1人で危ない状況に対処するのは怖いものです。そういう時は人に頼りましょう。

- 被害に遭いそうな人に接する際は、だれかに一緒に加わってもらいましょう。自分の懸念を伝えるには、時に1人より2人が効果的です。
- 他の人に間に入ってもらうこともできます。たとえば、危険が迫っている人をトイレに連れて行く場合、彼らの知人に頼むのも1つの方法です。
- 被害に遭いそうな人の友達に頼んでみましょう。「お友達が飲みすぎたみたいなんだけど、見てきてくれる？」などと伝えます。

大事なのは行動すること

結果はどうであっても、あなたが行動を起こすことで、誰もが「自分にも性的暴行を防ぐためにできることがある」と考えるきっかけになります。身の回りの人が被害に遭ったと思った時は、あなたが気にかけているということを示し、サポートするための手段を取りましょう。